

大人のためのピアノ・オルガン 体験レッスンマニュアル

本マニュアルは、主に初心者の大人の方を対象とした、体験レッスンに関するご提案の一例です。
特約店様や講師の皆さまのご事情にあわせてご利用ください。

ローランド・ミュージック・スクール

IAA0407

1. はじめに

大人の方を対象としたレッスンでは、音楽的な技術・知識の向上はもちろんですが、レッスンを受けることそのものから得られる満足感が重要な要素となります。いわゆる「講師と生徒」のような「主従」「師弟」の関係とは異なり、受講者の希望や目標を実現するために講師の方が「サポートする」という意味合いが大きいと思われます。大人の方へのレッスンは「お客様に対するサービス」と同様であるとも考えられます。

そのため、体験レッスンでは、「しっかりした講師・教室のもとで効果的なレッスンを受けられる」ことに加え、「楽しく、心地よくレッスンを受けられる」と受講者に感じて頂くことが、入会及びその後のレッスンの継続につながります。

本マニュアルでは、大人の方を対象としたピアノ・オルガンの体験レッスンについて説明しています。このマニュアルをもとに、みなさまの教室にあった体験レッスンをお考え下さい。

2. 体験レッスンの目的

入会希望者には、「見る・聴く・弾く」という実体験を通して、言葉では説明できない実際のレッスンの雰囲気を感じていただきます。軽い気持ちで参加する受講者にレッスンを楽しんでいただくことにより、入会への意思決定を促します。

3. 体験レッスンの流れ

(1) レッソンの準備

受講者にあらかじめアンケートを記入して頂くことで、受講者に関する情報を得ることができます。講師の方は、教室受付からアンケートを受け取り、受講者の情報を把握した上で、コースの主教材、曲集、ミュージックデータなどを用意して体験レッスンに臨んでください。

※アンケートの見本を巻末に添付しますので、必要に応じてご利用ください。

(2) レッスン前に

まず「こんにちは。〇〇〇コース担当の〇〇です。よろしくお願いたします。」といったごあいさつを。明るく言葉をかけることで、受講者に安心感を与えます。

(3) レッスンで

①事前アンケートをもとに、和やかな雰囲気でのカウンセリングを兼ねた会話の時間を設けます(これまでの楽器経験や読譜のレベル、弾きたい曲、目的、目標などを自然にお聞きします)。大人の受講者のニーズは多様であり、まずはそこを的確に捉えることが大切です。説明をするより、お話を聞くことを心がけましょう。

②楽器の紹介を兼ね、簡単なデモ演奏や講師演奏などに続き、受講者にも楽器を体験していただきます。(ここで、受講者のレベルに合わせた体験レッスンのプログラムを確認します。)

③教材の説明や受講者のレベル・趣味趣向に合わせた曲によるレッスンを行います。ミュージックデータなども使い、楽しくレッスンできることを認識していただきます。

(4) 初心者の方への注意

①体験レッスンでは、少し頑張れば弾けるような曲を使用しましょう。

②うまく弾けない場合は同じ部分にこだわらず、さりげなく次の課題に移行します。

③楽譜が読めない方には、はじめは楽譜にこだわらず楽しく弾けるようにレッスンを進めましょう。

4. 社会人について

仕事などで、十分に練習時間が取れないことを気にかける方が多くいらっしゃいます。そのような方には、自分のペースで無理なくレッスンを続けられることをお伝えしましょう。

- 「無理をせずマイペースで、練習はできる時にしていただければ結構ですよ。」
- 「もし練習できなかった時でも、お休みしないで必ずレッスンにいらしてくださいね。」
(レッスン時間内のみでの練習でも少しずつ上達できることをアピールします。)

5. ご年配の方について

「この歳になって…」とレッスンを受けることを恥ずかしがったり、不安に思いながら来る方もいらっしゃいます。そのような方には、「受講者のペースに合わせてレッスンを進められること」「同じように音楽や楽器を楽しむ同年代の方がたくさんいらっしゃることをお伝えしましょう。

- 「この教室には色々な受講者がいらっしゃいます。同じご年代の方もたくさんお越しになっていますよ。」
- 実例があれば「〇〇歳で始められた方がこの前の発表会で“〇〇〇(曲)”を弾いて、とても素敵でしたよ」といった話も効果的ではないでしょうか。

6. 受講者のニーズに対する提案

受講者の要望の内、教室のシステム上対応できるものは、しっかりご案内しましょう。

- 「人前で演奏を披露したい」→発表会、コンクールなどを紹介。
- 「バンドで演奏したい」→ミュージックデータを使ったレッスンでアンサンブル感覚が磨かれることを説明。
また、アンサンブルでのレッスンや発表会、コンクールなどを案内。
- 「楽器を持っていない」→レッスンルームのレンタルの紹介。

7. ミュージックデータを活用したレッスンの効果

ミュージックデータを活用したレッスンの効果を適切に説明するのも、教室の魅力を伝える方法のひとつです。

①「聴く」

演奏前の段階で、ミュージックデータによるお手本演奏を様々な角度(個別のパートを再生するなど)から聴くことにより、曲全体のイメージを正しくつかむことができます。

②「一緒に弾く」

テンポを落としてゆっくり弾く、片手パートを消して片手で演奏するなど、習熟の段階に応じたレッスンができ、また自宅での練習にも応用が可能です。特に初歩の段階では、自身の単調な演奏をミュージックデータの伴奏がサポートするので、楽しく練習を続けることができます。

このようなミュージックデータの活用により、演奏技術だけではなく、正確なテンポ・リズム・ハーモニーの感覚が身につきます。独奏にもアンサンブル演奏にもいかせる能力を得るための効果的なレッスンが可能です。

8. その他

- ①受講者には、お客様として大切に、優しく、丁寧に接してください。常に受講者のニーズを感じとり、それが実現できるような提案・サポートを行うことが、受講者の満足につながります。
- ②受講者は、仲間ができるとレッスンに通うのがさらに楽しくなります。受講者同士を紹介するなどのフォローも「楽しいレッスン」への下地づくりです。ただし、受講者によっては、それを好まない場合もありますので、受講者のタイプに合わせて対応しましょう。

■ピアノの体験レッスン

初心者向けの体験レッスン

- (1)体験レッスン用の楽曲は、できるだけ指番号(1～5のポジション)だけでできるものを選ぶ(1本指でも可)。場合によっては、講師の伴奏を付ける。「すぐ弾ける!」「弾けた!」を実感してもらう
- (2)講師が見本演奏をする。ピアノの音色以外で弾くのもよい。(例:フルートでメロディーを弾いたりチェンバロでバッハの曲を弾いたり)
- (3)ピアノを弾く上での基本について話す。
 - ①いすの位置・高さ、姿勢、指の形
 - ②音符の長さ、ト音記号のドの位置、鍵盤の並びについて

推奨教材

- ・ミュージック・パラダイス 1 入門編 T71-100
- ・ミュージック・パラダイス 2 応用編 T71-101
- ・ミュージック・パラダイス 3 ピアノ編 T71-102
- ・その他、プレシャス・ピアノ・コレクションなど

体験レッスン例

分	
0	会話によるコミュニケーション <ul style="list-style-type: none">・自己紹介、時候の挨拶など。・体験レッスンアンケートに基づき受講者の音楽経験、趣向などについてリサーチ。・希望するレッスン内容や目標について聞き、それがレッスンにより実現できることを感じてもらう。中・長期的なレッスンの進め方も具体的に説明。・楽器や使用するツールの説明(デジタルピアノ、MTなど)。
10	レッスン (受講者持参の曲、講師の選んだ曲などを使って) <ul style="list-style-type: none">・講師による模範演奏。・受講者の弾けそうなフレーズを選んで、実際に弾いてもらう。必要に応じて講師やミュージックデータによる伴奏をつける。・よいところはほめ、レベルに応じた適切なアドバイスを行う。・曲の一部や片手演奏でも構わないので、何らかの形で演奏を完成に導く。
25	締めくくり <ul style="list-style-type: none">・レッスンを総括したアドバイス。・お互いの感想を述べる。それとなく入会の意志を確認。・挨拶
30	レッスン後 <ul style="list-style-type: none">・教室受付スタッフに、連絡事項を伝える。

■ミュージックデータを活用したピアノのレッスン例

曲の選定

ミュージックデータ対応教材から、受講者の趣向、レベルにあったものを選択。初心者の方であれば、同じポジションで弾ける曲がベターです。曲を選んだら、曲に関するコメント(曲の解説、講師が持つ印象、演奏上のポイントなど)で、受講者に曲を印象づけましょう。

データを聴く

演奏の前に、データを聴いてみましょう。そのまま再生するだけではなく、ピアノのパートだけにしたり、片手ずつ聴いたり、譜面を追いながらゆっくり再生したり。データに合わせて歌いながらメロディーのリズムを把握する、リズムパートのみを聴いて「ノリ」をつかむ、というのも一つの方法です。限られた時間の中でのレッスンですので、実際に受講者に弾いてもらうところを重点的に聴く、などの工夫も必要です。

メロディー演奏（片手演奏）

曲の雰囲気がかめたら、実際に受講者に弾いてもらいます。簡単に譜面の読み方を説明したら、最初はテンポを落としてゆっくり演奏。受講者が自分の演奏を聴きやすいように、伴奏をリズムだけにしたり、左手を講師が弾いてあげたり、というやり方もあります。

繰り返し練習する中で、姿勢、指の形などについてもやさしくアドバイスしてあげましょう。演奏してもらうのは、曲の一部でも構いません。その場合は、曲の中でも印象的な部分を弾いてもらうと効果的です。

両手演奏他

時間があれば、右手と同様に左手も演奏してみます。ポピュラー曲の場合は、左手のフレーズからコードの仕組みを簡単に解説して、受講者の興味を高めることもできます。

仕上げ

受講者により仕上がりの段階にばらつきがあるとは思いますが、区切りをつけるためにもその日にレッスンした部分を通して弾くなどして、「仕上げ」を確認しましょう。

レッスンでの収穫を講師が具体的にコメントし、受講者に「達成感」を感じてもらえれば、入会にまた一步近づきます。また、今後の課題についてアドバイスして、レッスンに通うことでもっと上達できることを認識してもらうのも大切です。

参考教材・書籍

- ミュージック・パラダイス 1 入門編 T71-100
- ミュージック・パラダイス 2 応用編 T71-101
- ミュージック・パラダイス 3 ピアノ編 T71-102

コードやリズムの基本から学び、様々なスタイルに応用した演奏ができるようになる、ポピュラー系ピアノのためのシリーズ。ミュージックデータ対応。

- ミュージック・パラダイス 1 入門編／2 応用編 指導書 T72-117

「ミュージック・パラダイス」を使って指導される講師の方に向けた指導のポイントやヒントを掲載。

- コードとリズムの基礎知識 T92-118

リズムやコードの仕組みに対する理解をより深めるためのガイドブック。

■オルガンの体験レッスン

推奨教材

- ・ミュージック・パラダイス 1～3 T71-100、101、103
- ・オルガンフレンドリー・シリーズ など

体験レッスン例

分	
0	会話によるコミュニケーション <ul style="list-style-type: none">・自己紹介、時候の挨拶など。・体験レッスンアンケートに基づきお客様の音楽経験、趣向などについてリサーチ。 ※オルガンの場合は楽器経験のある方が多いため、きちんと把握しておくことが必要。・希望するレッスン内容や目標について聞き、それがレッスンにより実現できることを感じてもらう。中・長期的なレッスンの進め方も具体的に説明。・使用する楽器の説明。 ※楽器の購入、買い替えに不安を持つ方に、〈ミュージック・アトリエ〉を紹介する場合、<ul style="list-style-type: none">・下位機種でもレジストなどで上位機種と互換があること・操作性、データなどについて過去の機種から基本的な部分を継承していることを説明し、安心してもらいましょう。
10	レッスン (受講者持参の曲、講師の選んだ曲などを使って) <ul style="list-style-type: none">・ミュージックデータを聴く、あるいは講師が見本演奏。・受講者の弾けそうな場所を選んで、実際に弾いてもらう。右手・左手・足は別々でも構わない。・良いところはほめ、レベルに応じた適切なアドバイスをを行う。・可能なら1パートだけでも、ミュージックデータや講師と合わせて演奏し、楽しさを感じてもらう。・曲の一部や片手演奏でも構わないので、何らかの形で演奏を完成に導く。
25	締めくり、レッスン後 P3 ピアノ科の体験レッスン例を参照。

■大人のレッスン Q&A

受講者の方からよく受ける質問を想定して作成しました。講師様、教室のご事情に合わせてご利用ください。

Q:家に楽器がないのですが、練習はどうすればよいのでしょうか？楽器を購入しなければいけませんか？

- ・レベルに合わせてレッスンをしていきますので、当面は心配いりませんが、ご自宅に楽器があれば早く上達し楽しみも増えるでしょう。しばらくレッスンを続けてから考えてみてはいかがでしょうか。
- ・レッスンルームの空き時間を利用して練習することもできます。(教室にレンタルの制度がある場合)

Q:毎日練習しないと上達しませんか？

- ・もちろんたくさん弾いた方が上達は早いのですが、毎日お忙しいでしょうから、ご自分のペースで続けられてはいかがでしょうか。練習できなくても、レッスンにお越しになれば、少しずつ上達できますよ。また、電子楽器であれば、夜でもヘッドホンを使ったり、小さい音量で練習することもできます。

Q:この曲はどのくらいで弾けるようになりますか？(初心者がレベルの高い曲を選んだ場合)

- ・人それぞれなので一概には言えませんが、いろいろな曲を弾いてステップアップしながら挑戦してみませんか？
- ・ミュージックデータに合わせて、まずは片手演奏から始めてみませんか？(ミュージックデータがある場合)

Q:クラシックを勉強するのに、デジタルピアノでは支障がありませんか？

- ・最近のデジタルピアノは音もタッチもしっかりしていますし、デジタルピアノならではの機能も充実していますよ。
- ・デジタルピアノなら、ミュージックデータを使ったり、ピアノ以外のいろいろな音で演奏したり、アコースティックピアノにはない楽しみ方、練習方法があります。また、ヘッドホンを使えば夜でも気兼ねなく練習できますよ。

常に解決・実現の方法を明るく提案してあげることで、安心感・信頼感が増します。様々な質問に対する受け答えを教室の魅力伝えるチャンスにすることが、入会やその後のレッスンの継続につながるでしょう。

ローランド・ミュージック・スクール
ROLAND MUSIC SCHOOL

(2016年1月改定)